

優秀賞（tvk かながわ MIRAI 賞）

## 思春期がおくる更年期の取扱い方

神奈川県立相模原中等教育学校 3年 上野<sup>うえの</sup>夏芽<sup>なつめ</sup>



「大きくなったらお父さんと結婚するの」こんな会話が電車を待っていた私の耳に入ってきた。五歳くらいの女の子とお父さんが仲睦まじく話している。

勿論、私にもこんな時期があった。だが、今はどうだろう。進路のこと、普段の生活のことで言い争うことが多くなり次第にお父さんやお母さんと最後まで平和に会話するのが難しくなっていた。特に中学校一年生の時、私は思春期、反抗期真っ只中でほぼ毎日親と喧嘩していた。そして毎回決まって「こっちは思春期なのだから少し心に余裕を持って接してくれ」と自己中心的なことを親に呟いていた。すると、母が「こっちは更年期なのだから気遣ってくれ」と言った。そこで私は、はっとしたのだ。気持ちが不安定なのは私だけではなく親も同じなのだ。できることなら会話をするたびに喧嘩するなんてことはしたくない。

そこでインターネットで思春期の子と更年期の親はどうやったら上手く接していけるのか調べてみた。結果として出てきたのは「思春期なのだから仕方ないと割り切って接する」や「余計なことは話さない」、「過干渉しない」などといった親目線からの接し方であった。一方、子供目線で更年期の親と上手く関わる方法というのは全くもって出てこなかった。そこで私は子供が更年期の親とどう接すればいいのか作文を通して主張することができれば様々な家で親子関係円満が達成できるのではないかと考えた。

まず、更年期とはホルモンバランスが不安定になってそれに伴い気分、情緒も不安定になることである。思春期も気持ちが不安定になる時期であるためこの二つは混ざるな危険であり、ずっと一触即発状態である。ありのままの自分を出して喧嘩になるのなら、子供が、親が我慢すれば良いのではないかと思うがそれは良好な親子関係とは言えないのではないだろうか。お互いがなんの気兼ねもなく話せ、平和に過ごせることこそが思春期 VS 更年期の状況下において一番望ましい結果だと考える。

では、何をすれば両親と良い関係が築けるのだろうか。家事を手伝う、いつも部屋をきれいにしておくなど考えたが、これではただの親の機嫌取りにしか過ぎない。そして、私達の本業は学業である。テスト前などになると家事をする時間などなくなってしまい、それと勉強への

焦りも相まって親と衝突してしまうに違いない。だんだんと何が最善策なのか分からなくなったので、母親にどう接するのが一番嬉しいかきいてみた。母曰く「手伝いとかじゃなくて、普段あなた（私）にしていることを当たり前と思わないで、感謝してほしい」とのことだった。確かによく考えてみれば血の繋がりがあただけで所詮は他人なのにお弁当を作ってくれたり、塾に通わせてくれたり、送迎してくれたりなど親だからやってくれるのは当たり前と思っていたことに気付いた。

結論として更年期の親とうまく接していくために思春期の子供ができること。それは親が普段自分にしてきていることは当たり前ではないことを理解し、しっかりと感謝を伝えることである。そして少し余裕が持てたのならその感謝を行動に移すことで親子ともに感謝し合える素晴らしい関係が構築されるのではないだろうか。思春期と更年期は嵐が過ぎるのを待つようにするしかないといわれるが、私はそういうときこそ感謝を伝え、後に振り返ったとき「あの時は力を合わせて乗り切ったよね」といえる、親子の絆を深める時期にしたいと思う。